

多様性を尊重し、一人ひとりが自分らしい働き方を ～台湾発グローバル通販サイトPinkoiが展開するジェンダーレスな働き方～

ピンコイ株式会社



Pinkoiグループ全社員の約7割が女性。なかには、女性だけで構成されるチームも

「優れたデザインを通して、自分らしいライフスタイルへ」をビジョンに掲げる、「Pinkoi（ピンコイ）」は、台湾発・アジア最大級（商品数：230万点以上、ショップ数：32,000店以上*審査制）のグローバル通販サイトです。

そんなPinkoiグループ全社員（台湾、香港、中国、タイ、日本）のうち、女性の割合は約70%。また、女性管理職の比率は約70%に上り、これは日本企業の平均8.9%の約8倍にあたります（出典：帝国データバンク「女性登用に対する企業の意識調査 2021年」）。台湾をはじめ、アジアのさまざまな国に拠点を持つ企業であることから多様性を尊重する文化が根づいているのがPinkoiの特徴。スローガンでもある、“**Design the way you are.**”には、アジアをはじめとする世界中のお客様が、優れたデザイナーによるユニークなアイテムでライフスタイルを豊かに彩るように、という想いととも、**「一人ひとりが自分らしさをデザインできる社会に」**という想いも込められています。

そんなPinkoiにとって、「男女平等」と「女性のリーダーシップ」は、日常的に存在するもの。実際にピンコイ株式会社で働くメンバーたちにとっても、その文化は自然に根づいているように感じます。そこで今回は、弊社に約5年間在籍し、マーケティングコミュニケーションズマネージャーを務める日本人スタッフ・別所ゆかりと、8年以上在籍し、現在はマーケティングビジネスマネージャーとして活躍する台湾出身スタッフ・Migo Yinに、インタビューを実施。日々、弊社で働くなかで感じるジェンダーバランスやグローバルさをまとめてみました。

一人ひとりが「自分らしさ」をデザインできる社会に 女性がメインになって活躍する現場

別所 「Pinkoiは、お客様と世界のデザイナーを繋ぎ、デザインの国境をなくすことをコンセプトとした越境ECサイト。世界各国のデザインプロダクトをデザイナーから直接購入することができます。主に扱っているのが、台湾・香港・中国・タイ・韓国・日本などアジアの最新の雑貨やファッションということもあり、昔から20～40代の女性をメインターゲットにしてきたことが、女性スタッフが多い理由にも繋がっている気がします」
Migo 「最近になって、取り扱うアイテムにガジェットやユニセックスアイテムなどが増えてきたことに伴い男性ユーザーも増えてきましたが、スタート当初は女性ユーザーがほとんど。もともとPinkoiをユーザーとして利用していた人たちが、企業自体に興味を持ち、スタッフとして活躍するというケースが多かったんです。そんなこと

もあり、社内に女性スタッフが多いということが当たり前な環境に。

私自身も、これまで働くなかで特別に『性別』を意識したことはありません」



女性も男性も分け隔てなく、平等の立場で働くことができるのがPinkoiの魅力

別所 「Pinkoiで働くなかで、『男性だから』『女性だから』だという括りで、見られることはないですね。

私は以前、広告会社に勤めていたのですが、まさに男性社会な会社で。日々精力的に働く男性陣にまじって私もキャリアウーマンとしてバリバリと働いていたところ、『すごく男性らしい働き方をするよね』と言われたことがあって……。『そういう見方をされるんだ!』という衝撃を受けたことが今でも印象に残っています」

Migo 「その感覚は、Pinkoiにはないものですね。『男性だから』『女性だから』というジェンダーにとらわれることなく、全員が決断力を持たされているので、全員がバリバリ働いています (笑)」

誰もが平等に裁量を与えられ、自身の与えられた仕事に対して責任を持つということが当たり前になっているPinkoi。とは言え、仕事以外のプライベートもしっかりと充実させるべきというのが、Pinkoiグループの方針です。家族との時間やプライベートの時間もしっかりと確保し、QOLを向上させられるよう、効率を重視して働くことが尊重されているのもPinkoiで働く魅力のひとつ。

別所 「子どもがいても働きやすいというのは、すごく感じますね。『保育園・幼稚園のお迎えに行くので、今日は早めに退勤します』とか、『子どもに熱が出たので、今日は自宅で仕事をします』

とかいったことも気兼ねなく言える環境にあります。その場、その場で柔軟に対応してもらえるのは良いところかな、と」

Migo 「全員がそのスタンスで働いていますし、スタッフそれぞれの家庭環境についてもみんなが理解しているので、そういったやりとりが頻繁にされていても違和感を感じることはないんです。自分が持つ仕事に対して成果をあげることができていれば問題ないという考え方。どんな立場の人も、平等に、自分らしく働くことができるという環境が整っていると思います」

一時は、ピンコイ株式会社の女性スタッフの60%がママだったことも。毎日、子どものために奮闘するママたちの普段の頑張りと、苦労を知っているからこそその企画を立ち上げたこともあります。2021年の母の日特集には、世界中のすべてのママたちへの称賛と感謝を込めて「スーパーママだって、ご褒美がほしい!」という特設ページをオープン。「ママの笑顔こそ、子どものパワーの源。母の日だからこそ、母である自分にちょっと目を向けて『よくがんばってるよ』と、ご褒美をあげてみては?」というコンセプトのもとに特集を組みました。女性、そして母親の視点を生かし、企画に落とし込むことができるのも、Pinkoiで働くうえで強みとなっています。

世界中すべての人の多様性を尊重・リスペクト LGBTQをはじめとした社会的な課題にも向き合う

別所 「2019年5月には、アジアで初めて同性婚が認められた台湾。そんな台湾に本社があるだけに、PinkoiもLGBTQに関してはかなり寛容な考え方を持っていると思います」

ジェンダーだけではなく、文化の多様性を尊重・リスペクトするという意識も、さまざまな国に事業を展開するPinkoiグループならではの、創業当時から、ジェンダーレス、男女平等といった社会的課題に向き合ってきた背景があります。

特に、台湾にてアジアで初めて同性婚が認められた2019年は大きな起点に。台湾で毎年恒例となりつつあるLGBTQパレードが盛大に開催さ



LGBTQイベントの参加は毎年恒例に。イベントに向けたPinkoiのオリジナルのアイテムも製作

れたなかで、Pinkoi台湾本社もデザインを通じてLGBTQをサポートしたいという思いから、19のブランドと一緒に参加。「Pinkoi レインボーマーケット」を開催しました。

さらに、翌年2020年にも19の台湾ブランドとともにパレードに参加し、レインボーをモチーフにしたアイテムを取り揃えた同マーケットを企画・開催。日常生活のなかでも愛情を感じてほしいという思いを込めて、この日のためにPinkoiオリジナルのマスクケースやステッカーなどの作成にも取り組みました。

また、Pinkoiのオンラインサイト（台湾版）では、「レインボーアクション」として、レインボーアイテムを紹介するというイベントも開催。性別を区別することなく、自分のお気に入りのアイテムを見つけてほしいという思いを込め、各ブランドには「男性と男性」、「女性と女性」が一緒に撮影されている画像を商品ページのイメージとして



LGBTQ関連イベントに向けてデザインした、オリジナルのPinkoiステッカー

取り入れてもらいました。

ピンコイ株式会社としても、2022年には特定非営利活動法人 東京レインボープライドが主催する、アジア最大級のLGBTQ関連イベント「性」と「生」の多様性を祝福する祭典「東京レインボープライド2022」に協賛。「あなたの生き方を、あなたの色でデザイン」をテーマに、台湾、香港、タイ、日本の優れたデザイナーによるカラフルなレインボーアイテムをオンライン特集ページやTRP2022会場のPinkoiブースにて紹介しました。

Migo 「国や人種、性的指向に関わらず、私たちが大切にする、お客様、デザイナー、スタッフ、そして世界中のすべての人の多様性を尊重、リスペクトしようという意識があると思います。

また、デザイナーさん自身もLGBTQに向き合っている人が多い印象。実際に、この時期には多くのレインボーアイテムが並びます」



「多様に輝く、ピースフルなレインボーアイテム」。台湾、香港、タイ、日本などアジアを中心としたデザイナーが手がける、カラフルでユニークなレインボーモチーフのアイテムが揃う

今後も、社会的課題に正面から向き合い、世界中のすべての人たちの多様性を尊重し、ポジティブな社会がつかれるよう、Pinkoiとして今後もさまざまなアクションを起こしていきたいと考えています。

**“Grow beyond yesterday (昨日より成長する)”
日本と台湾の国境を越えたチャレンジを**



スタッフとも、出店するデザイナーとも国を越えた交流ができる

別所 「台湾と日本って、一見似ているようですが、考え方も働き方も全然違うんです。やっぱり文化の違いは仕事をするなかで感じるところが大きいですね」

Migo 「台湾はとにかくスピード重視。例えば、8割しか出来上がっていないものでもリリースし、その後にPDCAを回すというスタイルなんです。なので、とにかくスピーディー。それに対して、日本では最初から完璧であることを求めますよね。全部整えて、これで問題ない！という確証を得てからリリースするというのが一般的な考え方だと思います。ただ、台湾本社と連携して仕事を進めるうえでは、なかなかそれが通用しないところもあります。

どちらの働き方も、良いところがあり、悪いところもあるので、一概にどちらが良いとは言えないのですが……。できる限り双方の負担にならないよう、バランスが取れた仕事ができたらと思っています」

別所 「カルチャーや仕事に対する考え方の違いを通じて感じる大変なことはたくさんありますが、それだけに一つひとつの仕事に対しての達成感は味わっています」

Migo 「本当に、日々スタッフのレベルがどん

どん上がっているな、と。どんどん一人ひとりができる仕事の幅も増えていって（笑）。

Pinkoi全体として大切にしているのは、“Grow beyond yesterday (昨日より成長する)”ということ。失敗しても良いから、新しいことに積極的にチャレンジしていくという姿勢が求められていることもあり、躊躇なく初めてのことにも手が出せていると思います」

別所 「本当に日々変化が大きくて。入社した当時と今では、まったく別の会社のように（笑）。年々、仕事に求められることも変わってきていて。それも進化している証拠なんじゃないかな。おかげで毎年新鮮な気持ちで仕事できています」



絵本作家ディック・ブルーナの『ミッフィー』とコラボレーションした限定アイテムを販売するポップアップストア『Pinkoi × miffy ~TRAVEL with miffy~ TOKYO Pop-up Store』を東京・渋谷で開催

Migo 「ピンコイ株式会社のスタッフは20名ほど、まだ小さな規模の会社ではありますが、Pinkoiグループ全体で見るとそれなりの規模。台湾本社はもちろん、香港、タイなどさまざまな国のスタッフたちとやりとりをするので、会社が小さいという感覚は全然ないですね。

大掛かりなオフラインイベントなどを企画・開催するにあたって人手が足りないときにも、海外から応援が来てくれるので頼もしいです」

別所 「スタッフはもちろん、アジア各国のデザイナーさんたちとオフラインイベントなどを通じて会うことができるというのもPinkoiで働く魅力の一つ。私は、もともとアジア好きなので、楽しみながら仕事させてもらっています。Pinkoiで取り扱っているのは、台湾の製品だけではない

という認識も今後広めていきたいですね。越境ECサイトとして日本国内の方々にも広めていき、より多くの方に利用していただけるようになれば嬉しいです」

今後もPinkoiは、一人ひとりが自分らしいラ

イフスタイルを送ることができるよう、誰もが適切に評価され、認められ、ステップアップできるという模範を示すグローバル企業を目指してさまざまなアクションを起こしていきます。